

平成二十六年 度

中学校 八 第一回 V

国

語

へ注意へ

- 一 「始め」の合図があるまで、中を開けないで、注意事項をよく読んで下さい。
- 二 解答用紙は中に折り込まれています。最初に受験番号と氏名を解答用紙の指定欄に記入して下さい。
- 三 解答はすべて解答用紙の指定欄に記入して下さい。
- 四 字は濃く、はっきりと丁寧に書いて下さい。
- 五 字数には、句読点も記号も一字として数えます。
- 六 鉛筆・シャープペンシル・消しゴム以外は使用できません。
- 七 問題冊子は十八ページまであります。
- 八 「開始」・「終了」は監督の先生の合図に従って下さい。
- 九 早く解けても教室の外には出られません。
- 十 試験終了後、問題冊子は持ち帰っても結構です。

一、次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

「桃太郎が、川で洗濯せんたくしてる……」

下校路の橋で、しいちゃんが立ち止まった。

ほんとうだった。^①太郎が川べりでトレーナーを洗っていた。着ていたものをぬいで洗っているの、だぶだぶした白い上半身がま
る見えで、しいちゃんは「いやっ」と顔をおおった。

光希は橋の欄干らんかんから身をのりだした。遠巻きに、六年生の男子たちが水切りをしているのが見える。石は川に向かってだけでなく、
ときどき太郎に向けて投げつけられていた。

「光希、どうしたの？ 早く行こうよ」

「うん……あの、教室に忘れ物しちゃった。先に帰ってて、ごめんね」

そう、^②とうたがわずに手をふって行くしいちゃんを、光希は後ろめたく見送った。

太郎がだれかに教科書をかくされたときに見せてあげたり、鉛筆えんぴつをぜんぶ折られていたときに一本あげたり、ぶつけられたボール
を投げかえしてやったり、給食のスープに虫の死骸しかいを入れたときは、つまみ出してすててやったり、なにかにつけて光希が太郎
をかばおうとすると、いつもしいちゃんは、すごい剣幕けんぼくで反対する。だからつい、とっさにうそをついてしまった。

〈光希〉とよびすてにしてくれるほど、仲がよくなったのに……。

^④気持ちきもちを吹っ切るように、光希は土手をかけおりた。

水辺に学校のバケツがころがって、白い液体が黒い川の流れに筋をつくっていた。給食の牛乳をバケツにためてぶっかけるとい
う、不届せっぱんき千万ないたずらがなされたあとなのだ。

太郎は川の水で洗ったトレーナーをかわかそうと、むだな努力^⑤をしていた。広げて風にあてているのだが、ろくにしぼっていないから水がぼたぼた落ちていた。

⑥「かして」

光希は満身の力をこめてしぼりあげた。ざっと音がして、川原の石にしたたたった。

「トレーナーってかわきにくいんだよね」

光希はわざと大きな声で言った。そして六年生たちの視界に入るようにトレーナーをぶんぶんふりまわし、
「遠心力。洗濯機のまね。こうすると、すこしはかわくかもしれないね。……あはは、それに、これはなかなかいいトレーニングになるみたい」

太郎は後ずさりして、目をしばたいた。光希の出現によってさらにいじめられるのを恐れているのだ。

そのとき、六年生のひとりが石をひろった。ひとときわ背が高く、野球帽^{ぼう}を目深^{まぶか}にかぶったリーダー格の少年。こっちにねらいをさだめ、大きくふりかぶる。太郎は「ひっ」とうずくまり、光希はかまわず、トレーナーをふりまわしつづけていた。

そいつの腕^{うで}が「びゅん」となった。小石は光希の足首をかすめ、川面^{かわも}を数度はねて、むこう岸にとどいた。

⑧「おおー、と男子たちが低い声をもらした。」

光希はなにこともなかったかのように、腕をまわしつづけている。その筋力が平均的な五年生女子のものではないことに、野球帽のそいつだけが気づいたらしい。

「おまえ、なんなんだよ」

光希はゆっくり手を止め、六年生たちの顔をひとりずつながめわたした。正直いって、ものすごくこわい。六年生の男子は五年生

とぜんぜんちがつて、中学生に近い。

しかし、中野道場では高校生の男子の先輩^{せんぱい}にだって稽古^{けいこ}をつけてもらっていたのだ。光希は深呼吸しながら、野球帽のリーダー格にぴたりと視線をあわせた。

相手の視線が、それた。

「なんか文句あんのかよ」

ごまかすように、彼は光希のランドセルをぐいとかんだ。とつさに光希はからだをぐるんと回転させ、「セイッ!」と上段後ろ廻^{※まわ}し蹴^けりをはなつ。

パンツ!!——。

小さな炸裂音^{さくれつおん}がはじけ、どよめきがおきた。

ねらいどおり、光希の右足は野球帽のつばを蹴り、宙に舞い上げられた帽子は、ふっ……と滞空^{たいくう}したのち、持ち主の足もとにぱさつと落ちた。

長い数秒のあいだ、だれも身動きせず、息をのんだままだった。

「……へくしっ」

太郎のくしゃみが川のせせらぎにまじった。

それをきっかけに、だれかが帽子^{ぼうし}をひろい、野球帽をかぶり直したそいつは「ふん」と吐き^はすてて川辺の石を蹴^けった。

「おれ、女は相手にしない主義だから」

帰ろうぜ、と仲間をぞろぞろ引きつれていく、その姿が土手の上に見えなくなっても、光希はまだ不動立ちで見つめていた。

「へくしっ」

太郎のくしやみが、あつけなく緊張をほどこした。
パーカーをぬいでフードを頭に引っかけると、おびえてへっぴり腰で尻もちをつく。

「しょうがないなあ」

手を引っぱって助け起こすと、太郎は一瞬で立ち上がったことにおどろいて、目をぱちぱちさせた。それぐらいの腕力、光希にはわからないのだ。

「早く帰りなよ。風邪ひいちゃうよ」

太郎の家族は、きつとなにも知らない。知られてはいけない、だからこんなところで洗ってかわかそうと、むだな努力をしていたのだろう。

せつかく立たせたのに、太郎はその場にしゃがみこんだ。てこでも動かない意思をまるい肩にただよわせ、寒さに打ちふるえていく。

「ねえ、風邪ひきたいの？」

こくん、と太郎がうなずいた。

「えっ？ 本気で？ どうして？ まさか、風邪ひいたら学校休めるとか……？」

こんどはちよつと気まずそうにうなずく。

「ばあか！」

背を平手で突くと、太郎はあつけなくその場にくずおれた。

「桃井くん、なにか悪いことしたの？ だれかの鉛筆を折ったり、だれかにボールぶついたり、服にわざと牛乳をかけたり、給食に虫を入れたり、そういうことしたの？」

「え……ぼ、ぼくが……？」

「してないんだつたら、逃げることはないでしょ」

太郎は一瞬だけ、鋭い目を光希に向けた。

おまえになんかわかるか、ぼくは被害者なんだ。その目が言っている。

「わたし、桃井くんだって、悪いことしてるの知ってるよ」

「え、な、なに……」

「おはようって言っても、一度もおはようって言ってくれたことがない。話しかけても返事をしてくれない。そのたびに、わたしががっかりすることなんか、考えたこともないでしょう」

太郎は長いまつ毛を伏せた。

「桃井くんのこと、かわいそうなんて思わないよ。暗い顔しかできないひとは、顔の筋肉も動かしたくないナメケモノって思うだけ」
ひくつ……としやくりあげたかと思うと、太郎は声をあげて泣きだした。たまりにたまった水がめが、ついにあふれたかのようにだった。光希はティッシュをわたすと、はなれてなにも言わずに待った。自分も泣き虫だったから、そうしているのがいちばんいいと知っている。

おさまってきたころを見はからって、

「ねえ、秘密のことば、教えてあげようか」

太郎は赤い目で光希を見た。

「そのことばをとねえたら、^⑩勇気がわいて、力がみなぎって、いやなことなんかどーんと飛びこえちゃうんだよ。……でもね」
光希はそこで声をひそめた。

「あんまり口に出して言うと、ききめがなくなるから、一年に一回しか言っちゃいけないの」

「えっ……それ、い、いま言うの……」

「桃井くんが聞きたいならね」

「え、でも、いま言ったら、今年のぶんはもう……」

「そう。わたしはその貴重な一回を、桃井くんのために使うことにする」

「……い、いいの？」

「聞きたくないならやめるけど」

太郎はぶるんぶるんと首をふった。

「じゃあ言うね。一度しか言わないんだから、よく聞いてなきやだめだよ」

一度息を吐いて、深く吸ってから、光希は[※]丹田に力をこめた。

「ス・ト・グ・レ！」

（ストグレ……？）

——と、声に出して言いそうになって、^⑪太郎はあわてて両手で口をふさいだ。

「わたし、これから空手の道場に行くんだけど。桃井くんもいっしょに行かない？」

「……へっ!？」

「なあんてね、じゃあまた明日、^{あした}バイバイ！」

遅刻しちゃう、と光希は勢いよく土手をかけ上がったといった。

^⑫太郎の涙はもうすっかりかわいていた。

（小川智子『ストグレ!』より 一部表記・体裁を改めた）

※ 上段後ろ廻し蹴り：相手に背を向けた体勢から脚を上げて行う廻し蹴り

※ 丹田：体の部分でへその下にあたるところ

問一、——①「太郎が川べりでトレーナーを洗っていた」とありますが、それはなぜですか。「トレーナーに」という言葉に続くように、文中の言葉を使って十五字以内で答えなさい。

問二、——④「気持ちを吹っ切るように」とありますが、この「気持ち」としてもっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア しいちゃんにうそつきだと思われたくないという気持ち

イ しいちゃんにうそをついて後ろめたい気持ち

ウ しいちゃんにどんないいわけをしようかという気持ち

エ 何をしようというしいちゃんには関係ないという気持ち

問三、——⑦「わざと大きな声で言った」とありますが、光希はなぜこのような行動をしたのですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア いじめられている太郎を助けようとしている自分がいることを六年生たちに気づかせようとしたから
イ 自分の行動をアピールすることで、重いトレーナーをかわかさなければならぬ太郎への同情をひこうとしたから
ウ トレーナーの洗濯を手伝うことで、太郎を好きだと思っている気持ちを伝えようとしたから
エ わざと大きな声で会話することによって、落ち込んでいる太郎を元気づけようとしたから

問四、——⑧「おおー」と男子たちが低い声をもらした」とありますが、それはなぜですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 石が光希をかすったのでこわいと思ったから
イ 石が光希にあたりそうになったのであわてたから
ウ 石がねらい通りに飛んだのですごいと思ったから
エ 光希が石に気づかなかったのでがっかりしたから

問五、——⑨「あっけなく緊張をほどいた」とありますが、光希と六年生たちとの間にあった緊張感がもつともよく表れた一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問六、——⑩「太郎はあわてて両手で口をふさいだ」とありますが、

(1) なぜ「口をふさいだ」のですか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 声に出ただけで涙が出そうになってあわてたから

イ 声に出してしまうとききめがなくなると気づいてあわてたから
ウ 声に出して何を言えいいのかわからなくなってあわてたから
エ 声を出すつもりがまたくしゃみが出そうになってあわてたから

(2) ここから読み取れる太郎の性格としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 光希の言葉をばかにせず、正面から受けとめる性格
イ 疑問やその場の気持ちに気をとられやすい性格
ウ 気持ちを素直に行動に表す、子どもらしい性格
エ 頑固で相手にあわせることができない、気むずかしい性格

問七、——⑫「太郎の涙はもうすっかりかわいていた」とありますが、この言葉は太郎のどのような気持ちを表していますか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 光希に「秘密のことば」を教えてもらって、自分も強くなれると感じている
イ 「秘密のことば」では、がまんしてきたいじめはおわらないだろうと感じている
ウ 光希のそばにいれば、しいちゃんとも仲良くなれるのではないかと夢を見ている
エ おせっかいな光希がやっとなくなってくれたとほっとしている

問八、いじめに対してさまざまな気持ちをがまんしてきた太郎の様子をたとえた言葉を、文中から十一字で抜き出して答えなさい。

問九、「光希」はどのような人物として描かれていますか。もつともふさわしいものを次から選び、記号で選びなさい。

ア 相手がだれであっても、おそれをまったくいだかず思い切つて立ち向かつていく、物おじしない性格

イ 仲のいい同性の友人よりも、好きになった男の子のほうを大切にする、自分の気持ちに正直な性格

ウ 相手の意見やいいわけを聞き入れず、自分の考えを押し通す、思いやりに欠ける性格

エ 相手の欠点を遠慮なく指摘することもあるが、困っている人には手を差しのべる、めんどろみのいい性格

問十、「ストグレ」とは奄美地方の言葉で「負けてたまるか」という意味です。光希の「ストグレ」がもつともよく表れている一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問十一、――②「うたがわず」・③「すてて」・⑥「かして」とありますが、「うたがう」・「すてる」・「かす」の反対の意味になる言葉それぞれ漢字一字と送り仮名で答えなさい。

問十二、――⑤「努力」の「努」――⑩「勇氣」の「勇」について、それぞれ次の場合の読み方をひらがなで答えなさい。

⑤成績の向上に努める。 ⑩勇ましく行進する。

二、次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

サイドカーに三味線をのせ、あちこちに教えに行く、八十歳の三味線のお師匠さんに会ったのは、三十年くらい前でしょうか。

八十歳と三味線、ハーレーダビッドソンのサイドカーの組み合わせが、実に新鮮でした。

お弟子さんが百人以上はいると聞いて、思わず口をついて出た質問がありました。

上手になるのは、もともと才能と素質がある人ですか、それとも、よく稽古をする人ですか、と訊いたのです。

返ってきた言葉は、実に簡単でした。

素直な子です、とそのお師匠さんは答えたのです。

へえーつと内心でうなりました。人は素直であるだけで、三味線の腕があがるのだと、びっくりしました。素質も才能も、稽古量

も、〈素直さ〉の前では、何の重みももっていないのです。

当惑顔に気がついて、お師匠さんは言葉を継ぎました。

頑固な子、ひとりよがりの子は、こちらの言うことを聞きません。ひとりよがりでどんなに練習しても、下手な道を突き進むだけです。そうすると、素質も才能も、あつてなきがごとしです。頑固さも同じです。

なるほど、と腑におちる思いがしたのを、昨日の出来事のように思い出します。

以来、〈素直な心〉の反対は何だろうか、ずっと考えてきました。

頑固、ひとりよがりも、〈素直〉の反対側にある言葉ですけど、今ひとつ対立語としての迫力がありません。

実は、〈素直〉の反対は〈いいわけ〉なのです。①いいわけは、進歩の芽をことごとく食いつぶします。

進歩のない人、同じ失敗を性懲りもなく繰り返す人を、ちよつとだけ観察してみましよう。

鉢植えの植物が勢いをなくしているのを指摘されたとき、水やりの担当係がどう答えるのか、多様です。

②「毎週二回、言われたとおり月曜と木曜にちゃんと水をやっていました」。この返答もいいわけです。週二回の水やりを言いつけられたからといって、それを墨守すればいいとはいえません。冬と夏では、水やりの加減は違ってくるでしょうし、一回の水やりも、コップ一杯の量にするか、半分の量にするかで、違ってきます。

鉢の下に置いてある受け皿に水がたまっていると、根腐れの心配も出てきます。それを注意されても、「週二回の水やりは、ちゃんとしていました」と答えるのでしょうか。もしそうであれば、早晚、その植物は枯れるでしょう。

植物が枯れても、「ちゃんと週二回の水やりは欠かしませんでした」と、当の本人が答えれば、「いいわけ」ここに極まれます。③
一事が万事で、こういう人は、他の面でも、臆面もなく失敗を重ねるに違いありません。

植物に虫がついているよ、と指摘されても、その人はこう答えるはずで。

「言いつけられたのは水やりで、虫がついているかを見ることではありません」

なるほど、見事な「いいわけ」です。この「いいわけ」で、本人は、責任をするりと回避しています。

枯れた葉を取り除かず、そのままになっているのを注意されても、蛙の面に小便で、何の反省もありません。水やりは、言いつけどおりやっていたので、落ち度はないと答えるはずで。

逆に、「いいわけ」をしない対応はどうなるのか、考えてみると、その差の大きさに驚かされます。

水やりにもかかわらず、葉の勢いがなくなったとすれば、水が多すぎたか少なすぎたかです。「あ、すみません。これから気を付けます」と答えると、次回からの水の量も加減するはずで。冬は、週一回の水やりに変更してもいいのかもしれませんが。

その際、自然に受け皿にたまっている水にも、眼がいくようになるでしょう。同時に、水をやりながら、枯れ葉がないかや、葉に

虫がついていないか、などにも気を配るはずで。

④「いいわけ」は、嘘と同等と考えて構いません。

※「(⑤)」という格言を知らない人はいないでしょう。ところが、失敗が成功に結びつくのに、条件があるのを知っている人は、そういません。失敗が成功に至るには、その間に、反省と内省がなければならぬのです。「いいわけ」は、この反省と内省に蓋をしてしまいます。

⑥「いいわけ」には多くの種類があります。人という存在が、いかに「いいわけ」をしてきたかの事実が、その種類の多さにハンエイスられています。

⑦「いいわけ」は、大きく三つの形に分けられます。

第一が、「私がやったではありません」で、最もよく使われる手口です。その代表例は嘘です。自分がしたのに、そうではないと白々しく嘘をついて否認します。首を横にふって声をあららげれば、より嘘は完璧に近づき、相手は黙るよりほかありません。嘘をあからさまにつきににくい場合は、「そんなこと知りません」とアライを前面に出す手もあります。「そこにいなかったのです、分かりません」と、かぶりをふつてもいいでしょう。物理的に事件の現場にいなかったのですから、犯人は私ではない、無関係ですと、微妙なシラを切れます。

嘘も使わず、アライづくりもしないでいいやり方は、責任転嫁です。「それはAがやりました」と直接名指しをしてもよく、「Aさんたちがそこにいたので、そのうちの誰かがしたのでしょう」とぼかしても構いません。あるいは、「そんなことをするのは、子供でしょう。大人はしません」と、さらにぼかすやり方もあります。さらには「私はしていません、誰がしたかも知りません」と言っ、嘘にオブラートをかけて、暗に誰かに責任転嫁をする巧妙な「いいわけ」もあります。

第二のやり方は、「たいしたことではない」と事態を過小化する方法です。「たかが一時間遅れただけじゃないか」と、待っていた友人に言ったり、「たかが花瓶ひとつが割れただけです」と、使用人が主人に言うのです。

過小化の見本は、小中学校でよく問題になるいじめです。いじめられて生徒が自殺したあと、いじめた側の生徒が事情聴取を受けて、「あれはいじめではなく、遊びでした」と平気で言うのもこの類です。

虐待された子供が亡くなり、逮捕された親が一樣に言い逃れするときも、この過小評価が使われます。「虐待などではなく、しつこくでした」

似たような〈いいわけ〉に、正当化もあります。これには必ず理由づけが伴います。この方法では、〈いいわけ〉された側は少しも非がないのに、何だか非はこちら側にあるような雰囲気になり、ケイセイが逆転します。

原子力発電所の炉心溶融で、原発推進派が使う手口はこれにあてはまります。「原発が悪いと責めるが、これまでそのおかげで安い電気料金で快適な生活ができたじゃないか」と言われると、こちらの旗色がにわかに悪くなります。

「たいしたことじゃない」の窮極の形は、相手をけなしたり、罪を相手になすりつけるやり方です。試験で不合格になっても、「そもそもあの問題が悪かった」、「あんなひっかけ問題を出す教師など、教師ではない」になります。

⑪ 第三の〈いいわけ〉の形は、「それはそうですが、でも……」です。前段階で自分の非は多少なりとも認めたうえで、「でもしかし」が常に強調されます。

その手始めは、「そうせざるをえなかった」です。ここでは超能力的な力が常に引用されて、「魔がさしたのです」や「ついついほかのことを考えていたのだ」とか、「無我夢中でつい」が頻用されます。

次に来るのが、「そんなつもりではなかった」です。「彼女を泣かせるつもりではなかった」とか「冗談で言ったまでですよ」と

いいわけされると、ついついこちら側も、「ああそうですか」と思い、相手の思惑どおりになります。

「はいそうです、しかし」の三つめの方法は、「本来の私ではなかったのです」で切り抜けるやり方です。ここで〈いいわけ〉の根拠としてもち出されるのが、気分や体調、うっかり、忙しさです。「あのときは体調が悪く、本来の私ではありませんでした」や、「忙しさ続きで、うっかりしていました」です。この言い方の裏には、「本来の自分であれば、そんな失敗はしません」というような、微妙な傲慢さが隠されています。

このようなさまたまの〈いいわけ〉の到達点が、はじめに述べた嘘です。〈いいわけ〉は嘘と地続きなのです。

〈いいわけ〉と嘘で壁をつくってしまうと、反省や内省が生じません。嘘と〈いいわけ〉で、失敗は失敗を呼びます。どこまで行っても、失敗の連続です。

⑫ 論語でいう「小人の過つや、必ず文る」のとおりです。あやまちは誰にでもあります。大切なのは、そのあとです。小人の場合は、犯したあやまちを改めようとはせず、必ず弁解します。その結果、第二、第三のあやまちが繰り返されるのです。

〈いいわけ〉は絶対しないと、肝に銘じた生き方をしていれば、進む道は間違いなく成功に続いています。

⑬ 〈いいわけ〉をしない心が、三味線のお師匠さんがいみじくも言った素直な心です。あるいは、森田正馬が推賞した「純な心」といつてもいいでしょう。小賢しい知性によって歪められない、偽りのない心が「純な心」です。

今の時代、素直さとか純粋といった性向は、どこか小馬鹿にされ、人の口にさえのぼりません。はなから無視されています。

知恵や工夫、ひとひねりしたサク、奇抜な考え、いつでも人のあげ足をとってやろうと待ち構えているような、濁った知性、複雑な心こそが高等だと考えられがちです。

「純な心」、素直な心は、人の心の原点です。赤ん坊はみんな、この心をもっています。嬉しいときは笑い、悲しいときは泣き、ほ

められたら喜び、叱しかられたらしよげます。それでも「純な心」で、新しい経験けんめいを懸命に身につけようとして努力します。〈いいわけ〉とは無縁むえんの心です。だからこそ、無力でありながらも、周囲の大人の注意をひき、かわいいと思わせ、大人の援助えんじょの手が伸びてくるのです。

小憎らしい赤ん坊など、誰ひとり構ってやらず、世話もしてやらないので、生き続けられません。

⑭ 素直な心、「純な心」は、無力な人間がもつ、最大の武器なのです。

(帚木蓬生『生きる力』より 一部表記・体裁を改めた。また出題の都合上、一部省略した)

※墨守…固く守り続けること ※格言…深い経験けんめいをふまえ、簡潔に表現した教訓の言葉

※内省…自分自身の行動や考えを深くかえりみること

※小人の過つや、必ず文る…「あやまちを犯したときに、心の狭い人はいいいわけをしたり、取りつくろったりしてごまかそうとする」という意味 ※性向…気性、気立て

問一、——①「いいわけは、進歩の芽をことごとく食いつぶします」とありますが、その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文中から五字で抜き出して答えなさい。

失敗したときに、いいわけをする人には進歩のもとになる の姿勢が欠けているから

問二、——②「毎週二回、言われたとおり月曜と木曜にちゃんと水をやっていました」とありますが、水やりの担当係はこの言葉を通してどのようなことを伝えようとしているのですか。答えにあたる言葉を文中から六字で抜き出して答えなさい。

問三、——④「〈いいわけ〉は、嘘と同等と考えて構いません」とありますが、筆者が考える〈いいわけ〉と嘘に共通する問題点を、もっともはっきり表している段落の最初と最後の七字を、文中から抜き出して答えなさい。

問四、(⑤) にあてはまる格言を答えなさい。

問五、——⑦「〈いいわけ〉」とありますが、

(1) この言葉とほぼ同じ意味を表す言葉を文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

(2) 筆者は〈いいわけ〉をどのような言葉として考えていますか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

〈いいわけ〉は をのがれるために発せられる言葉である

問六、——⑩「これ」の具体的な指示内容を文中の語句で答えなさい。

問七、——⑪「第三の〈いいわけ〉の形」とありますが、第二第二の〈いいわけ〉の形と、第三の〈いいわけ〉の形はどのような点が異なりますか。解答欄の言葉に続くように、文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問八、——⑫「〈いいわけ〉をしない心が、三味線のお師匠さんがいみじくも言った素直な心です」とありますが、これより前の文中で、お師匠さんは三味線が上達するのは素直な人だと述べています。なぜそう言えるのかを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

素直な人は するから

問九、——⑭「素直な心、『純な心』は、無力な人間がもつ、最大の武器なのです」とありますが、素直な心や「純な心」は無力な人間に何をもたらしますか。文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問十、この文章は、〈素直な心〉と〈いいわけ〉を比べながら筆者の意見を述べていく展開ですが、間に〈いいわけ〉の種類を具体的に述べていく段落がさしこまれた文章構成になっています。〈いいわけ〉の種類を述べているのはどこからどこまでですか。

最初と最後の十字を文中から抜き出して答えなさい。

問十一、——③「極まれり」・⑧「否認」の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

問十二、——⑥「ハンエイ」・⑨「ケイセイ」・⑬「サク」をそれぞれ漢字に直しなさい。

中学校 国語 解答用紙

問一 トレーナーに
から

問二
問三
問四
問五

問六 (1)
(2)
問七

問八
問九
問十

問十一 ② うたがう ↓
③ すてる ↓
⑥ かす ↓

問十二 ⑤
める 努
⑩ ましく 勇

問一
問二

問三 最初
最後

問四
問五 (1)
(2)

問六
問七
点

問八

問九

問十 最初
最後

問十一 ③
極
まれり
⑧ 否認

問十二 ⑥
ハンエイ
⑨ ケイセイ
⑬ サク

合 計

受験番号
氏 名